

Title	遺跡整備・活用の課題と現状：遺跡はいかに「まち」に貢献しうるか
Author(s)	本居, 佑麻
Citation	令和元（2019）年度学部学生による自主研究奨励事業研究成果報告書
Issue Date	2020-06
oaire:version	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/75959
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

2019年度大阪大学未来基金【住野勇財団】学部学生による自主研究奨励事業研究成果報告書

ふりがな氏名	もとおり ゆうま 本居 佑麻	学部 学科	文学部 人文学科	学年	2年				
ふりがな 共同 研究者氏名	おうくら あゆり 往藏 歩里	学部 学科	文学部 人文学科	学年	2年				
	かどわき みく 門脇 美空		文学部 人文学科		2年				
	たきぐち こうたろう 瀧口 公太郎		文学部 人文学科		2年				
	なかお はるな 中尾 春菜		文学部 人文学科		2年				
	ほんだ まりん 本田 茉鈴		文学部 人文学科		2年				
	もりうち やすひろ 森内 靖大		文学部 人文学科		2年				
	やすだ あゆみ 安田 あゆみ		文学部 人文学科		2年				
アドバイザー教員 氏名	高橋 照彦	所属	文学研究科						
研究課題名	遺跡整備・活用の課題と現状―遺跡はいかに「まち」に貢献しうるか―								
研究成果の概要	研究目的、研究計画、研究方法、研究経過、研究成果等について記述すること。必要に応じて用紙を追加してもよい。（先行する研究を引用する場合は、「阪大生のためのアカデミックライティング入門」に従い、盗作剽窃にならないように引用部分を明示し文末に参考文献リストをつけること。）								

I. 研究の概要

2019 年 7 月 6 日にユネスコにより「百舌鳥・古市古墳群」が世界文化遺産に登録された。これにより、我が国の古墳・遺跡ブームがますます促進されると予想し、考古学資料の積極的活用に関する社会的要求、そして遺跡と地元の地域（周辺環境）を結び付けたまちづくりの必要性、この 2 点がいっそう高まっていくものと考えられた。

そこで、近畿圏を中心に、各時代の代表的な遺跡について、遺跡公園における各施設や周辺環境、PR 活動の実態などを実地調査した。この作業の中で、「遺跡とまちを繋ぐ要素」の実態と効果的な活用を展望する重要性について、改めて認識するに至った。

以上をふまえ、今回の対象遺跡の中でもひときわ注目を浴びている百舌鳥・古市古墳群の「百舌鳥古墳群」に対象を絞り、「観光」を意識した遺跡とまちの繋がりをより深く検討することを試みた。具体的作業の一つとして、大仙公園周辺で散策する観光客などや NPO 堺観光ボランティア協会のボランティアの方々に街頭取材を行った。

その取材において判明した周辺環境と遺跡活用に関する大きな課題の一つに、案内パンフレットの利用実態があった。そこで、遺跡の、まちづくりへのより効果的な活用方法を探るケーススタディとして、各種既存パンフレット・マップリーフレットの分析を試み、その問題点や特筆すべき点を抽出し、今後の遺跡活用に結び付ける方向性を模索した。

II. 研究の具体的内容

1. 各遺跡公園の現地調査からみた活用・整備実態

上述のように本研究において基礎となるのは各遺跡の周辺環境・遺跡公園の構造、整備状況のデータ収集・分析である。そこでまず資料収集を目的とした現地フィールドワークを実施し、データ収集を行った。基礎データの収集方法に関しては、共同研究者及びアドバイザー教員を交えてミーティングを重ねた結果、チェックシートを用いた方法が適切であるとの結論に至った。

対象遺跡とフィールドワーク実施日時及び調査メンバーは下記の通りである。

百舌鳥古墳群	8 月 22 日（木）	担当者…往藏・本田・安田
岩橋千塚古墳群	8 月 23 日（金）	担当者…往藏・本田・安田
唐古・鍵遺跡	8 月 25 日（日）	担当者…門脇・中尾・本居
鳥浜貝塚	9 月 20 日（金）	担当者…門脇・瀧口・森内

以下、チェックした各項目について概要を述べる。

(1)遺跡公園の構造と整備状況

①鳥浜貝塚、②唐古・鍵遺跡、③百舌鳥古墳群、④岩橋千塚古墳群のフィールドワークを実施し、遺跡公園の構造と、整備後におけるメンテナンス状況をチェックした。その際、整備状況、復元状況、解説看板の有無、博物館の有無、ボランティアの解説員・ガイドツアーの有無、案内板の有無、ビュースポットの有無、の 6 つの項目を設定し、検討を行った。収集したデータは、項目ごとに以下の表に集約した。なお、百舌鳥古墳群に関しては、仁徳天皇陵古墳と履中天皇陵古墳について調査したものである。

	①鳥浜貝塚	②唐古・鍵遺跡	③百舌鳥古墳群	④岩橋千塚古墳群
整備状況	公園あり 草木の手入れが行き届いていない	公園あり 草木の手入れが行き届いていない	大仙公園 立ち入り禁止（二重柵） （鳥居）	草木の手入れが行き届いていない 墳丘への階段設置 石室の見学可
復元状況	竪穴住居	楼閣 大型建物柱跡	なし	埴輪 竪穴住居
解説看板	あり	あり	あり	一部あり
博物館	若狭三方縄文博物館 福井県年縞博物館	唐古・鍵考古学ミュージアム	堺市博物館（VR 体験）	紀伊風土記の丘資料館
ボランティアガイドツアー	博物館にてボランティアによる解説あり	史跡公園・博物館ともにボランティアによる解説あり	ガイドツアーあり	なし
ビュースポット	なし	なし	あり	なし

(2)周辺環境

①福井県・鳥浜貝塚

鳥浜貝塚は、鯖川沿いに位置する。最寄り駅からの移動手段は徒歩かレンタサイクルしかなく、歩道も少ないためアクセスは良好ではない。遺跡から博物館までの道も一本道だが、看板は1つしかなくわかりやすいとは言えない状態である。博物館の駐車場は大きいので、車で訪れたほうが便利かもしれない。発掘現場そのものは現在水中にあるため、訪問者は博物館で展示を見るのがメインとなる。情報発信については、博物館の HP で館の紹介や講演会の案内といった情報を入手することができる。博物館内には土偶や縄文杉のキーホルダーなど、縄文関連のグッズが小規模で展開されている。

②奈良県・唐古・鍵遺跡

唐古・鍵遺跡は国道沿いに位置し、史跡公園として整備されている。本史跡公園には駐車場が設置されており、最寄り駅からは徒歩圏内にあり、交通アクセスは良好である。更にレンタサイクルの貸し出しも行われている。唐古・鍵考古学ミュージアムは公園から離れた位置にあり、アクセスは悪い。また、公園内には休憩所及びトイレが設置されており、散策に適当な施設が揃っている。様々なイベントが開催されており、観光客だけでなく地元住民にも目を向けた活動を行っている。唐古・鍵史跡公園 HP では、遺跡の概要やイベントや情報を入手できる。史跡公園の向かいにある道の駅では復元銅鐸や弥生土器が展示され、遺跡関連の工芸品が販売されている。

③大阪府・百舌鳥古墳群

百舌鳥古墳群は住宅街に位置し、古墳群の中心といえる仁徳天皇陵古墳へは近隣に駅があるほか、連絡バスもあり交通アクセスは良好である。古墳をめぐる周遊路の整備に加え、レンタサイクル施設も点在する。大仙公園にはトイレや休憩所が数か所あり、散策に適当な施設が揃っているといえる。広報面では観光サイトが充実しているほか、公園内にある観光案内所には多国語表記を含むパンフレットが設置されている。また古墳をモチーフにした料理を提供する飲食店や、土産物店といったグッズショップが大仙公園から百舌鳥駅周辺に集中的に立地しており、全体として観光に力を入れた環境

がつくられている。

④和歌山県・岩橋千塚古墳群

岩橋千塚古墳群は岩橋山中に分布し、これを保全し公開する施設として紀伊風土記の丘資料館が建てられている。最寄り駅からバスと徒歩でのアクセスで、交通の便はよくないが、バス停から風土記の丘資料館までは道が朱色に舗装されており、訪問者への便宜が図られている。一方古墳群の散策ルートに関しては、道中に休憩所やトイレは数か所設置されているものの、急斜面が多く道も舗装されている箇所とそうでない部分があり、健脚者向けと言える。情報発信については、紀伊風土記の丘 HP があり、館の紹介から学校向けの学習教室の案内といった情報を入手することができる。資料館には古墳群散策のガイドマップや案内板が設置されている。グッズ販売も行われているが、資料館を含め周辺に遺跡関連のメニューを用意した飲食店は無い。

(3)イベント実施状況等について

上記の調査データに加え、以下に、各遺跡と関連したイベント・フード情報の一例を箇条書きで記載する。

①鳥浜貝塚

- ・年縞博物館内のカフェにて年縞サンド・年縞コーヒーの販売
- ・最寄りの道の駅で水月湖年縞羽二重餅の販売
- ・若狭三方縄文博物館で「縄文ヨガ」の開催

②唐古・鍵遺跡

- ・史跡公園内で芝刈り体験
- ・弥生土器コンテスト・弥生わらアートコンテストの開催
- ・「ムラまつり」における竪穴住居制作体験

③百舌鳥古墳群

- ・堺市博物館での体験学習
- ・古墳関連のフードを提供する周辺飲食店、グッズを販売するショップ
- ・もず・ふるカード（名刺サイズの遺跡写真入りカード）

④岩橋千塚古墳群

- ・HANI-1 選手権（ハニワ作りのコンテスト）
- ・ジュニア考古学研究発表
- ・夏休みものづくり体験（ハニワ、勾玉）

※遺跡関連のイベントは多様化しており、上記の事例はほんの一部である。

(4)分析とその結果

上記の現地調査及び各遺跡公園・博物館の HP から読み取れることを以下のように整理した。

(1)、(2)においては「博物館・資料館」、「ボランティア」等が遺跡と地域を繋ぐ第一の要素として挙げられる。前者の「博物館・資料館」の存在により、各遺跡の情報は考古資料を通して一層具体的に市民に提供される。また、館内の資料保存・研究活動は次世代の教育にも貢献している。後者の「ボランティア」は大半が地元のシニア層で、遺跡や博物館という存在が地元のシニア層のコミュニティを創設しているだけでなく、人々の生き甲斐となり得るものも提供している。また、唐古・鍵遺跡の最寄りの道の駅に設置されていた「モバイル・ミュージアム」は、道の駅の訪問者に遺跡の存在を印象付ける効果を持っている。

(3)においては、1つに、百舌鳥古墳群、特に大仙古墳周辺の飲食店やショップが提供する遺跡関連フード・グッズ等が挙げられる。こうしたものは近年話題になっており、観光客へのPR活動にも功を奏している。世界遺産登録と共に観光客増加を下支えする要因の1つになっているではなかろうか。イベントに注目すると、①唐古・鍵遺跡の「芝刈り体験」のように地元の人々を対象にしているものに注目したい。④岩橋千塚古墳群の夏休みものづくり体験のような夏休みのイベントは、自由研究の一環で小学生の参加が多いものと見られる。こうしたイベントは、「遺跡と地元の人」を繋ぎ、間接的に遺跡の重要性を周知する役割を担っている。

以上に明らかなように、遺跡公園の活用方法としては大きく、生涯学習などを目的として遺跡や博物館を訪れるコア層、そして他方のライト層、それぞれを対象とした2種類が存在する。そして現地調査を通じて、我々は2種類の対応を上手く組み合わせることが「遺跡とまちを繋げる」上で鍵であると強く感じた。どちらか一方だけでは、遺跡の周知、観光面、あるいは遺跡の価値を正しく発信することにおいて効果が薄いのではないか。このうえまちづくりに最初に関わるのは、後者の、ライト層への活動であろう。そして、広報活動の奏功が特にライト層の取り込みに影響すると我々は予想し、次の検討作業として、百舌鳥古墳群をケーススタディに、広報活動、特にパンフレット等の紙媒体を利用とした活動の実態を分析した。

2. 百舌鳥古墳群における広報活動の分析—古墳群パンフレットを手掛かりに—

「遺跡とまちの繋がり」及びその広報活動、特にパンフレットに関する調査をすることを目的に、訪れた諸遺跡の中でも注目を浴びる百舌鳥古墳群の「仁徳天皇陵古墳」周辺にて、NPO 法人堺観光ボランティア協会の皆さんや、観光客に直接取材を行った。その方法に関しては、基本となる古墳周辺に関する幾つかの質問を事前に用意し直接聞き取り調査をするというものであった。ボランティアとそれ以外で質問を分け、特に後者には数個の基本的な質問を準備し、回答者の返答内容によって質問内容を分岐させる形をとった。

取材は12月1日(日) 門脇・本居・森内・安田が行った。

(1)パンフレット分析の前提

取材によって見つかった主な課題とは、以下のものである。

- i.パンフレットを所持する人で、十分に活用できている人が少ない
- ii.そもそもパンフレットを所持する人が少ない。

以上、2点のパンフレットに関する課題を見出し、パンフレットの内容分析を開始した。まず現在そのようなパンフレットが存在するかを調査したところ、百舌鳥(・古市)古墳群に関わるパンフレット及びマップは驚くほど多様化しており、個別で見れば、観光に非常に有用と考えられることが判明した。この気付きを基に課題(1)(2)を再検討したところ、新たな課題が浮かび上がった。つまり、パンフレットそれ自体の魅力が不足していることが原因であるというよりも、その利用方法に主に問題があるだろうことが予想できた。

そこで、この問題を深く掘り下げるために、a. 何故所持している人が少ないのか、b. 何故所持している人は活用できていないのか、の2点を考えた。

a に関しては、「設置場所が少ない」こと、そして「設置の工夫がなされていない」ことが問題点として指摘できる。取材日12月1日に大仙古墳周辺を歩き回った結果、パンフレットは「各観光案内所」、「堺市博物館」、「堺東駅」、「古墳関連のグッズが販売されているショップ」に限られることが判明した。また、パンフレットが簡素な白いラックに、屋外に置かれている場合があり、設置工夫の必

要性を感じさせられた。

b に関しては、取材で明らかになったことであるが、パンフレットの「種類が多すぎる」ことが問題点として指摘できる。多様化が進んだことは喜ばしい出来事であるが、情報過多となり一部の観光客は困惑してしまっているようである。情報を求める度合いは人によって異なるため、まず我々は現存のパンフレットの内容を精査し、どのような情報が共通しているか、個別のパンフレットの個性がどのようなところに現れているかを検討した。

(2)パンフレット分析の結果

①堺観光ガイドブック（堺観光コンベンション協会）

- ・周遊ルート、主要な古墳及びレンタサイクル情報等が記載されている。
- ・冊子がコンパクト。
- ・絵柄がポップで万人受けしやすいか。
- ・問題点：マップの道が分かりにくい。大仙古墳を中心に巡る設定のマップ作りをしてあるため、他の古墳の情報が少ない。

②SAKAI J-CULTURE VISITOR'S GUIDE {同協会、(1)の英中韓版}

- ・①とほぼ同じだが比較すると、周遊ルート、「もずふるレンタサイクル」が記載されていない

③百舌鳥古墳群エリアマップ（同協会）

- ・百舌鳥古墳群の全古墳が番号を付けられ左部分にリスト化されており、全てがマップに落とし込まれている。
- ・徒歩で満喫コース、健脚 1 日コースの 2 通りのコース提案がされている。
- ・裏面には古墳群を含めた旧市街地のマップがある。

④百舌鳥古墳群ウォーキング・マップ（百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産登録推進本部会議）

- ・マップが大きく見やすい。
- ・撮影スポットや見どころなどの情報が沢山記載されている。
- ・問題点：コンビニエンスストア以外の飲食店が掲載されていない。マップが大きく持ち運びに不便。

⑤古墳のある街堺市（るるぶ）

- ・見どころと簡潔な古墳の解説が添えられている

< 1 ～ 2 ページ >

- ・古墳に関する基本情報や世界文化遺産登録に関する記述がされている。

< 4 ～ 5 ページ >

- ・百舌鳥古墳群のおすすめ古墳の説明書きが 5 ～ 6 行程度でされている。
- ・撮影スポットが写真と一緒に記載されている。
- ・グッズについてのコーナーが多い。

- ・問題点：トイレの記載数が他と比較して少ない。マップに記載された情報の中心が古墳となっておりあまり観光向けではない。

< 6 ～ 7 ページ >

- ・サイクリングコースを提案している。
- ・テーマ別モデルプランを記載している。
- ・非常に簡潔なマップが使われている。
- ・問題点：コースやモデルプランを提示したもののマップが簡潔すぎる。これでは観光客がスマートフォン等を使ってしまう。

< 14～15 ページ >

- ・ 堺広域マップ及び拡大マップ
- ・ 堺駅周辺と大仙エリアが拡大して掲載されてある。

(3)パンフレット分析のまとめ

以上のように、パンフレット分析を行った結果、コア層だけでなくライト層の取り込みも狙ったと見られるポップなパンフレットについては、記載される情報量が多く、色々なユーザーのニーズに対応できるが、その一方で、盛り込むべき情報が多岐に渡ってしまうために、地図などの核となるコンテンツが煩雑になったり、読むのに疲れてしまったりするなどの問題を抱えていると考えられた。こうしたパンフレット自体の問題と、先述の設置場所の問題を勘案すれば、a. パンフレットの種類は多ければよいというものではなく、明確なコンセプトに基づく少数種類が適切であろうこと、b. 設置場所についても工夫が必要であること、c. シンプルなパンフレットにおいて最低限記載すべき情報は、マップ、古墳の概要などで、パンフレットの形態としてコンパクトなものが使いやすいこと、などの点を明らかにできた。

Ⅲ. 研究の総括と課題

我々は初めに遺跡の周辺環境、整備状況・イベント等を調査し、「遺跡とまちの繋がりを強固にしている要素」を検討した。これらの調査からは、直接的にあるいは間接的にその結びつきを強くする要素がコア層・ライト層それぞれに対応して 2 種類あることを認識するに至った。

その上で、我々は特にライト層に対しては広報活動が重要であると考え、比較的パンフレット発行の盛んな百舌鳥古墳群を題材に選び、現地取材と重点的調査を行った。その過程で、パンフレットやマップが乱立する「パンフレット戦国時代」ともいえる現状が浮き彫りになり、各種パンフレットの中身等を分析する必要性が生じた。

パンフレットのそれぞれに長所・短所（例えば記載情報過多や設置場所の問題）を見つけ、①利用者のニーズに応じてシンプルなものも準備する、②設置場所に工夫をする、などといった点が効果的に広報を行う上で重要だと結論付けた。こうしたことでライト層を取り込み、遺跡そのもの、ひいてはその遺跡の保護活動に関心を抱く人を増やすことが、遺跡の恒久的保存とそれをいかしたまちづくりにおいて重要であると結論付けた。

「参考文献」

唐古・鍵遺跡史跡公園<<https://www.karako-kagi.com/>>(2019 年 11 月 22 日参照)

田原本町唐古・鍵総合サイト<http://www.town.tawaramoto.nara.jp/karako_kagi/index.html>(2019 年 11 月 22 日参照)

年縞博物館<<http://varve-museum.pref.fukui.lg.jp/>>(2019 年 11 月 22 日参照)

若狭三方縄文博物館<<http://www.town.fukui-wakasa.lg.jp/jomon/index.html>>(2019 年 11 月 22 日参照)

和歌山県立紀伊風土記の丘「イベントガイド」<<https://www.kiifudoki.wakayama-c.ed.jp/>>(2019 年 11 月 22 日参照)